

# 乳房切除術を受けた Dさんとお子さん (学童期 一人)

私の母が、私が学童期の時に、  
乳がんの手術をしているんです。

**看護師** お子さんに、説明した時に、びっ  
くりした様子があったのですね。

**Dさん** 乳がんっていうことは言っていない  
です。名前は出してないですけど、胸の病  
気っていう風に説明をしたんです。たま  
たまじゃないですけど、私の母が乳がんで、  
片方全部取っているんです。(子どもは)  
それも見てるしお風呂も一緒入っているし、  
その姿を見るから同じ病気なんだからこ  
とを伝えたんです。そしたら、「え？」っ  
てなったんです。そんな感じになって、……。  
子どもは私がいつも元気そうだったから、  
病気になったっていうことと、入院をして  
手術をするって、薬を飲んで治すものじゃ  
ないってことに対して、「え、手術するの？」  
ってびっくりしていました。あと、母親が  
家に居なくなる、居られなくなるショックつ  
ていうかが、ちょっとあったみたい。言葉  
では言わないけど。まあ、夜寝ている時に  
子どもに、「病気になってほしくなかった」

みたいなことは言われて。こっちだってな  
りたくないよって思ったんだけど、ほんと  
うにそう思っていることを、寝る前にぼそっ  
とやってみたりとか、そういうのはありま  
したね。

**看護師** お子さんと、一緒に寝ているので  
すね。

**Dさん** まだ寝る時は横にいてくれてい  
うので、寝るまではちょっと寝たふりはし  
ますね。今はもう退院して戻ってきたので  
安心したのか、手術前と変わらずって感じ  
です。

**看護師** 入院前後で、お子さんが違うなっ  
ていうことはありますか、遊びとか。

**Dさん** ああ、遊ぶう遊ぶうって誘われる  
けど、本人っていうより、私の方が(入院  
して)いなかった分接してあげたいとか  
(思います)。またなんかあったら、この子  
に迷惑かかるっていう感覚になって、その  
時々を大切にしたいなと思います。前はちょっ  
と面倒くさかったんですけど、今は遊んで  
あげよっかなって、子どもより私の方が、  
遊びに関してはね。

**看護師** 退院後のコミュニケーションはど



うですか？

**Dさん** (手術後の) リハビリを、子どもと一緒にやってくれて。「痛い、痛い」って言っていると、「お母さん頑張っ—」、こう励ましてくれて、そういう部分があると、もうちょっと頑張ろうかな—って、ちゃんとやらないとダメだなと思う。子どもに励まされてね(笑)。「十回だよ。十回」って言われながら。

**看護師** お子さんは、リハビリをする目的を分かっている感じですか？

**Dさん** 傷も見せているので、ここが痛くて腕が上がらないんだって、これをやらないと元に戻らないことは伝えてあるので、気分的にあまり付き合ってくれない時もあるけどやってくれています。

るけどやってくれています。

**看護師** 学校(での様子)は、変わりありませんか？

**Dさん** それはいつも話していたので、変わらない感じ。

**看護師** 買い物や、家事のお手伝いはどうですか？

**Dさん** 重いものとか、すごく重かったりすると、「いいよ。持ってあげるよ」とか(言ってくれています)。持てないせにちょっとこう、(子どもが)持ってちょっと歩いてかわいそうだなって(私が)思って、「やっぱりいいよ」と、私が元に戻すんですけど。なんだろう、(子どもが)自分が助けてあげようっていう気持ちは、たぶん前よりはあると思います。買い物とか。家事はちょっとね。炊事は、余計、ぐじゃぐじゃになったりするからね。できることをやってもらうかなって思ったりしていたので、炊事は手伝ってもらってないんですよ。あえて、言ってもらうよりは、子どもが何かを察してですかね。そうですね。手伝ってくれます。

**看護師** 退院してから、病氣のことでまた

説明したことはありますか？

**Dさん** 「手術して、ここ切って、取ってもらったよ」ってことは伝えた。そのくらいですかね。あまり詳しくは言っても分からないだろうから。子どもは、「ああ、そ—うなんだ」って、割とさらっと。でも、たぶん家に帰って来たことによって、あ、たぶん大丈夫なんだなって思ったみたいだからね。

**看護師** お子さんの心配は、入院で居なくなる—ことだったのですか。居ない間はお子さんを誰がみていたのですか？

**Dさん** 主人は、単身赴任中なんです。一週間休みを取って、後の一週間は、おばあちゃんにお願いしていました。入院中に子どもが、主人に聞いたことは、病氣のことではなくて、「いつ帰ってくるの?」—ということでした。入院前に取っしまえば大丈夫ってことは、伝えてるんですね。だから、子どもの不安は、いつも居ないってことですね。

**看護師** 入院中は電話したのですか？

**Dさん** 毎日してない。ちょこちょこ来たので。

**看護師** 面会の際に、怖がったりしましたか？ 管に対してとか。

**Dさん** ああ全然。「それなーに？」とか言っていた。「悪いもの出ているんだよ」って、怖がることはなかったです。

**看護師** 退院後のお風呂で、胸の傷を見せた時の反応はどうでしたか？

**Dさん** じろじろ見てましたね、こうやって（身を乗り出して）子どもの目線がここ（手術した胸）にあって、あ、また見てるなって。やっぱりこう気になるんでしょうね。「また、見てたでしょ？」って言うのと、ニターっと（子どもが）笑って。何なんでしょうね？ 傷跡を見て、気になるみたいですね。何かあるわけではないけど見てる。まだ、帰った時に傷にテープ貼っていたから、生々しい感じではないからかな、そんなに、「ぎょっ！」っていう感じではなかった感じ。そういうのも私が一緒に、何て言ったらいいんだろ？ 病気と一緒に、分かってもらうじゃないんだけど、隠さないで見せて、分かってもらおうって、なんていうか、状況を一緒に過ごしていくっていうか、そういう思いですね。

**看護師** お子さんにも、病気のこと分かってもらって、一緒になって（ということですか）。

**Dさん** そうです。隠さないであんまり気を使って、お風呂に入らないとか、なんかこう、ここ見せないとか、逆にこの部分が気になるし、「何を隠しているの？」みたいになるし。そういう関係になっちゃうと、関係がなんか崩れるから……。もう、手術してこうなんだよっていうのを伝えて、子どもが何かあるんだったら聞いて、対処しなきゃいけないなって思ってる。

**看護師** （手術した胸を）直に見せる時に緊張はしましたか？

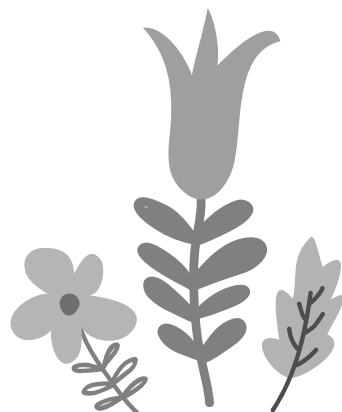
**Dさん** いや。傷があってテープも貼っているけど、最初に入る前に、「もし怖かったら、おばあちゃんと入ってもいいんだよ」っていうことは言ったんですね。「ううん。全然一緒に入ろうよ」って感じだったので、まあ、安心して一緒に入ってる。じろじろは見てたけど、全然、これ（手術した胸）については、何もふれてこなかったしね。

**看護師** 着替えたりする時は、どうですか？

**Dさん** うん。割と全然。お風呂に入った時には、やっぱり、こう目につくらしいので見ちゃうんだね。

**看護師** お子さんに、病気のことを伝えるにあたって、旦那さんと相談しましたか？

**Dさん** いや。相談もしてなくて、もと悪性って言われたその時から、うちのおばあちゃんも同じ病気でどうのこうのって話もしちゃっていたので、そういう話を聞いているから、ちょっと分かりやすく、伝えたほうがいいかなって思って伝えてはいたんです。だから、前もって、この子にそう伝えてっていう相談はないですね。



**看護師** 旦那さんは、その決定には何か言っていましたか？

**Dさん** うん全然ない。今も変わらない。

**看護師** 退院後は、旦那さんのサポートはどうですか？

**Dさん** 旦那？ ……え？（笑）うん。気分的にやっぱり居ると違いますけどね。

**看護師** Dさんのお母さんは、Dさんに乳がんのことを伝えていましたか？

**Dさん** 私が学童期だったので、この病院で手術したんですけど、がんって病名はあたしには伝えてはくれてなかったです。



もっと年齢が上の時にがんってこういうものだと知ったんですね。なんか胸の病気で

という。なんの病気かというと詳しくは教えてもらってなかったから。だから、私もこの

子には詳しく教えてはないけど、そんな感じだったんですね。

**看護師** あえて、Dさんから聞いたりはしましたか？

**Dさん** あー。してない。そんなに、聞いたことはなかったかなあ。

**看護師** Dさんが、初めてお母さんの手術した胸を見た時はどうでしたか？

**Dさん** びっくりしました。ほんとに……うん。

**看護師** お子さんががんの勉強をするのはどう思いますか？

**Dさん** まだ教えなくてもいいかな。でも、どうなんでしょうね？ 病名的な説明って。

**看護師** 学校でもがん教育って取り組みはないですか？

**Dさん** うん。もうちょっと大きくなった時に。まあ、言われてそうなんだって納得

できるぐらいの歳だったら、どんどん病気が

がどうかこういう病気が多くてとか教え

ていけばと思うんだけど。まだ、ちょっとその辺が説明できない。だから、今は詳しいことは言わなくていいかなとは思う。

私の子どもの場合だと、たぶん伝えて納得して、分かってくれると思うので伝えたいですね。いろんなケースがあるでしょうね。私は子どもの性格をみて伝えた部分があります。

**看護師** 病気を伝えるにあたって、お母さんが「がん」と告知されたショックがあると、お子さんに病気を伝えることが難しい

ようですが、Dさんはどうでしたか？

**Dさん** そうですね。最初はちょっと伝えられなかったの。うーん……。そうですね。自分の中でタイミングは考えてですね。

**看護師** 伝えることでの不安はどうでしたか？

**Dさん** 伝えることでの不安っていうのは、なかった。まずは、やっぱり手術をして元

気な姿を見せたいっていうのが一番だったので。やらなきゃいけないって思っていた

から、子どもに分かってもらえなくても、

元気な姿になって、また、そこで接していければいいかなと思ってね。

**看護師** 伝えるまでの間、お子さんの様子はどうでしたか？

**Dさん** 子どものいる前では、その話題はしないようにはしていたので。家でその話題になると、ちょっと、吹っ切れる前だと、結構こっちがグツときて。なんか、気分がかなりこう（下がる）だったので、家の中ではあんまり家で病気の話とかは、やめようかなって思っていたのですね。学校の先生には一応入院する前に伝えて。病名も伝えてほしいどのくらい入院しますっていうことと、子どもの面倒を主人とおばあちゃんが見ますと言って、学校生活長いのでその辺お願いしますっていうことは先生には伝えていました。

**看護師** 学校の先生にも、協力してもらったのですね。

**Dさん** そうですね。先生から、主人にどうですかって連絡がきていました。やっぱり、子どもを学校に預けるにあたって、先生の許可も大切だと思うので……。学校の様子も、お母さんがいなくても、いつも通



り元気に暮らしているみたいなのは先生が伝えてくれたので、それを主人から聞いて大丈夫なんだって安心をもらっていました。すごくいい先生なんです。非常に氣遣っていた良かったです。

**看護師** 学校と連携が取れていたのですね。旦那さんは、手術後にDさんにどんな声掛けをしてれていますか？

**Dさん** 「腕上がるの？」とか、「どお？」みたいなね。そういうのはあるね。軽い感じで（笑）。

**看護師** お子さんに伝えるために、何かを参考にしたり、インターネットを見たりしましたか？

**Dさん** いや、しません。

**看護師** 自分が必要だと思って、伝えたということですね。

**Dさん** そうです。まあ、子どもは性格にもよると思う。うちの子どもの場合だと、たぶん伝えて納得してくれるっていうか分かってくれると思ったので伝えたんです。例えば、伝えてなんか、なんていうんでしょう？ いつもと、雰囲気が変わってしまうタイプのお子さんだと、また、伝え方も工夫がいるんでしょうね。いろんなケースがあるでしょうね。私は子どもの性格をみて伝えた部分があるからね。

**看護師** Dさんの家系的に、おばあちゃんも乳がんなので、遺伝という心配はどうですか？

**Dさん** それはあります。物心ついた時から、母がそういう病気で、ここ数年は胸をこう自分で触って、気になった時は、すぐ病院に行って診てもらったりとか、自分でしてたので。だから、子どもも自分でケア

していけるように伝えていきたいとは思っているんですね（子どもが乳がんになるということに）不安ですね。そこだけはちょっと、不安ですよ。でも、やっぱり中学校から子宮頸がん予防とかね、あるから。そのくらいになったら乳がんってことを教えて、

そのために予防方法の話をしたって思っ  
て、この乳がんってことを伝えてね。

**看護師** 思春期くらいになったら、乳がん  
について教育していこうと考えているので  
すね？

**Dさん** そう。子どもの学習で、がん教

育が、私はあれば、聞きたいって思っ  
ているんです。子どもにきちんと教えるって  
ことで。

**看護師** 貴重なお話を、ありがとうございます  
ました。

— 終 —

